

教育目標

ひらこう世界へ  
のびようともに  
つくろう夢を  
こえよう自分を

紙面から

- 中学生国内留学体験・水難救助・コラム …… 1
- 夏季教員研修・わかば教室・教育相談室 …… 2
- ひのっ子ががんばっています …… 3
- 郷土資料館特別展・企画展・わくわく小学生・ほか …… 4

# English Summer Camp in Kurohime-Kogen

ひらこう世界へ…未来のリーダーたち  
中学生国内留学体験を終えて



長野県黒姫高原にて、7月26日から28日までの2泊3日、市内8校の中学校から23名の中学生が参加して、中学生国内留学体験を開催しました。

この国内留学体験事業は、今年で10回目を迎える日野市教育委員会と東京日野ロータリークラブとの共催で実施している事業です。日野市の教育目標の一つ「ひらこう世界へ」には、私たちの暮らしている故郷日野を愛するとともに、広く世界へ羽ばたいてほしいという願いが込められています。様々なことを柔軟に吸収できる時期にある中学生にとってこの国内留学体験は、自分の未来をひらく有意義な経験になるとともに、広い視野で物事を考える機会ともなり、英語でのコミュニケーションやスピーチを通して豊かな表現力を高めることが期待されています。また、日野市の中学生の代表として、「自ら考える」、「自ら行動する」、「責任をもって生きる」生徒として、世界を舞台にした可能性への挑戦とリーダーシップを育てる機会にもなると考えています。

参加した23名の中学生は、黒姫高原の豊かな自然環境のもと、英語でのSelf-Introduction, Presentationsなどの

プログラムを通して、しっかりと聞いて理解すること、自分の意思を伝えていくことなどを学び、間違いを恐れず口に出してみることで、英語を話すことにも慣れてきました。Night Walk, BBQ, Summer Olympic, Fireworksなどのプログラムを重ねるたびに、アシスタントとして参加したテンプル大学の留学生とのコミュニケーションも深まってきました。最終日、グループによる英語劇では、これまでに培った英語力を存分に発揮し、笑いを誘ったり、友達との絆を発揮したりしながら、表現や感情の伝え方を工夫したすばらしい発表になりました。

この3日間で生徒たちは、英語を使ったコミュニケーションの楽しさを知り、もつと英語を使いたい、外国の文化や習慣を実際に確かめたいという思いを強くしたことでしよう。そして、一緒に参加した仲間やスタッフ、先生方との交流は、きつとかけがえないものになったはずです。

今回の中学生国内留学の実施に向けて、東京日野ロータリークラブをはじめ多くの皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

(学校課)

## 昭島市で水難救助 大坂上中 生徒ら 9人に消防総監感謝状!

7月30日午前11時ごろ多摩川の拝島橋付近で、一人の男性が突然溺れた。それを見ていた近くの中学二年生が勇気を振り絞って助けに向かった。しかし、友達と2人で川岸に運ぶことができなかった。そこに、水遊びに行っていた大坂上中学校一年生 斉藤 竜海君らシニアのメンバー7人が手伝い、何とか男性を岸に引き上げた。

たところ、反応のなかった男性は、表情がゆるみ、口から赤みがかった水の泡をふいた。他の中学生が救急隊を連れてきて、男性は病院に運ばれ、一命を取り留めた。中学生の協力で、ひとりの尊い命が救われた。

男性は、白目をむき青ざめ、呼吸もせず、脈もなかった。中学生たちは、心臓マッサージを始めた。斉藤君は、以前通っていた空手の道場で「みぞおちのちよつと上、その左側に心臓がある。そこをマッサージしなさい」と教わったことを覚えていた。それを実践した。他の中学生も交代で心臓マッサージをし

活動をせずに5分も経てば、助からない命だった」と話があった。救急隊が到着し救急処置を始めたのは通報から13分後。5分間の救助活動の影響の大きさがわかる。

(大坂上中学校)



## コラム 子どもは 大人を見ている



日野市公立中学校校長 会長  
(日野市立大坂上中学校長)

岡部 秀敏

えらい! 「中学生」。

通勤途中にある小さな交差点です。交通量の少ない横断歩道の信号が「赤」ならば、当然「止まれ」です。

しかし、通勤途中や地域の大人の半分以上は、車が来ないと「赤」を無視して渡つていきます。中学生のほとんどは、「青」になるのを待っています。「えらい! 中学生」。

でも、中学生の独り言が気になりました。「大人はずるいよ。中学生が信号無視すると自分たちの事はさておき文句を言うのに!」

世の中、自己責任の時代と言われています。しかし、子どもも大人と同じ時代に生きています。大人が良ければ、それで良いのでしょうか。テレビ番組の中にも子どもが見たら「やってもいいんだ」と誤解する言動が見られます。

学校は「ダメなことはダメ」「悪いことは悪い」と言い続けたい。そして、良いことを褒めたい。子どもは大人を見ている。